

史料紹介

エリザベス・ギヤスケル

『マイ・ダイアリー』（最終回）

笹川真理子 訳

一八三八年 三月二十五日 日曜 夜

私のかわいい子のほんの幼い人生の上にも、一つの新しい時期が訪れてきました。明日からあの娘は幼稚園へ行くのです。私は生まれつき優柔不断と言うより、むしろもう遅過ぎるという時に、自分の下した決定を悔やみがちになります。でも今になって幼稚園に行かせることが、この娘にとって正しかったのかどうか、迷い始めているのです。というのは、どちらにも十分な理由があるからなのです。あの娘は家庭において喜びを持ち、私達皆を愛し、私を信頼してしてくれます。それは現在私にとって大変にしあわせなことです。幼稚園へ行くことによって、それらの事は弱まるかもしれないのです。あの娘の精神がもっと発達した

なら、正しい考えを与えられるかもしれませんが、今はそっとしておきたいと思っている事があります。しかし幼稚園ではそれらの意味をあの娘に教える子ども達に出会うかもしれません。それは、死とか偽りなどに関してです。

しかし私達があの娘の幼稚園行きを望む理由もまた強いのです。それはどんな分野の知識も急激に増そうというためではありません。というのは、ウィリアムも私もこれを好まないからです。そうではなく、言うことをきく習慣を徹底し、忍耐によって困難を克服することを学ばせ、そして少しの間でもあの娘を落着かせるためにです。

あの娘は九時半に出かけ、十二時に帰ってくるはずですが、そしてたとえ保育があるとしても、今のところは、きっと午後は幼稚園はないことでしょう。私は午前中だけで十分適応力がつくと思

いますし、午後には戸外などで私やミータと一緒に過ごしてほしいと思っています。

私は我子を自分から進んで手離して、私に一番の責任があることを忘れるような、怠けた母親になるのではないかと心配しています。私はこの点で、もっとよい母親となるように努めましょう。私はできるだけ自分で、あの娘を送り迎えるつもりです。私にはこうしたい訳がいくつかあるのです。一つには、幼稚園の外ではあの娘はあまり他の子ども達と一緒にいるべきではないと思うからです。それは皆、お行儀の良い、しつけのしっかりした子ども達だとは信じています。しかしあの娘は年下なので、どんな誤った考えも人一倍簡単に飲みこんでしまう恐れがあるからです。

それから、帰る道すがら、幼稚園で起こったどんなささいなき事も、すべて私に話すようにさせたいと思っていますからです。私はもしあの娘の考えが混乱したらそれを正し、あの娘の気持ちになって教えてやることができるでしょう。

私はこの幼稚園行きを、あの娘の一番の事を思っで決めるようにしました。今はその結果を待たなければなりません。ただあの娘に対する神の祝福を祈ります。

前回書いてから、あの娘と私は宗教について一緒に話し始めました。私はあの娘に神の恵みや愛のような、あの娘にも理解できると思われる純全たる真実を話しました。神が夜、静まった家の私の私達を見守っていて下さることなども。あの娘は今ではこの

大切なことに関する限り、正しい考えを持っていると思います。初めはとも、具体的な質問をして私を困らせました。「いつ——眠るの」などと言って。しかし今では、私達は声を潜めて語り合っている、あの娘は神についての話を聞くのが好きです。それに神を、「すべての善きものを施こされる方」（もちろんあの娘の言葉ではありませんが）として、非常に正しくとらえて言うのです。

あの娘の伯母のリジーがまもなくここへやって来る予定なので、私は今晚あの娘に、私達みんなが元気なら、リジー伯母さんはここに三週間いることでしようと言いました。「でも誰に、私達がみな元気であるようにお願いしなければならないの」（マリアンヌ）「神さまよ。」

少し間をおいて、あの娘はこうつけ加えたのです。「私、リジー伯母さんも元気なように、神さまにお願いするわ」

あの娘はクリスマスの日だけでしたが、初めてチャペルへ行っで、少し疲れたように見えました。しかしチャペルへ行ったことを話すのがとても好きなようです。

あの娘は自分の名前の大文字をみんな選んで、いぬ、うし、うま、などの言葉を作るように並べることが出来ます。あの娘は「ちいさなはたらきばち」と言うことが出来ますが、その言葉に十分な意味を付けているのかどうかはわかりません。

あの娘の気質は以前と同じ、頑固という欠点を免れないままです。かなり不機嫌な事にある事をするように言われると、あの娘はまるでバカのように手で口をあわわわとたたき続けるのです。

ですから、あの娘をその気にさせるのはとてもむずかしく、賢明な治療法を見つけるのは、困難の最たるもののなのです。

いろいろ試みながらも、時々軽くむちを打たなければなりませんと言うのは、とても残念なことです。それは悔やみながら、優しく行なわれました。そしてそれは怒りの気持ちも少しも起こさせずに、必ずあの娘を素直にさせました。あの娘は普段は優しい気持ちに満ちたかわいい子なのです。

あの娘は少し気軽過ぎると思われるほど、貧しい人々に心配りをします。「私は、ママとパパとミータとエリザベスとフアンと、かわいそうな人々を愛します」と。ウィリアムは、私があの娘の感受性を刺激し過ぎると心配して言いますが、私はそうではないことを望んでいます。なぜなら私が、彼と同じ程それを心配しなければならぬからです。

今晚は小さなミータについて書く時間がありません。私は次の「章」をミータにあてましょう。その間、ただ二人の幼い姉妹達はお互いにとても仲が良いようだと言っておきましょう。神が二人を祝福され、あの娘達を守って下さいますように。でもそれは私の意志でなされるのではなく、あなたの、主の御心によってなのです。アーメン。

四月八日 日曜 夜

こうして書くのはちょうど二週間ぶりのことですが、あの時以来、私はマリアンヌについて、悲しい恐れに襲われました。先先

週の日曜日、あの娘は夜八時頃、⁽¹⁾クループにやられたのです。私達は犬のほえ声のようなせきを聞きました。(あの娘はずっと鼻風邪をひいていて、一日中顔色がすぐれず、ぐったりしていたのです) 私達はあの娘に吐根を二十四錠飲ませました。ワインとサム、それにバーティントンさんも来て下さいました。彼らは、私達がとても正しく処置したと言って、甘米粉をあの娘に処方して下さいました。

もちろん、非常に多量の薬や、必要な家での引きこもりによっても、あの娘はそんなに良くなったわけではありませんし、幼稚園にも行けませんでした。しかし、私達はあの娘が私達のもとに残されたことをとても感謝しなければなりませんし、私は本当に心から恐れながら、感謝することを望んでいます。かわいそうに、あのエディー・ディーンちゃんと同じ夜にクループにかかり、次の月曜日になくなってしまったのです。

ああ、神が私に与えるにふさわしいとお思いになった苦悩を、完全に甘受できますように。そして、ああ主よ、私が私のいとしい子らを守ることをあなたに祈る時、私があまりにあの子らに夢中になりすぎませんように。マリアンヌの示すあらゆる思いやりによって、私はますますあの娘を愛するように思われるのです。

前回、日記をつけた時には、時間が遅くなってミータについて何も特別なことを書かずじまいでした。この日記に以前に綴ったことを見ては、私はこの二人の子どもの達の違いに気づいて楽しんで

でいます。

ミータはあまり妨まれることなく健康に恵まれたせいだと思ふのですが、マリアンヌが同じ年にそうであつたのより、ずっと自立心に富んでいます。あの娘は多くの子ども達が歩くのと同じ位速く、どこでもはい回れます。もしドアが開いていれば、台所への廊下もまっすぐに進んで行くのです。あの娘は何につかまっても立つことはできるのですが、少しも歩こうとはしません。抱かれてゐるよりも、喜んで一度に一時間も床の上で遊んでゐるでしょう。いつも歌ったり音をたてたりしていますが、ちっとも話そうとはしません。あの娘はとても愛情深い子ですが、マリアンヌほど感じやすくはありません。たとえば、あの娘は少しも笑われるのをいやがらず、むしろおどけるのを楽しんでゐるのです。

しかし私は、あの娘は幾分甘やかされの恐れがあると心配しています。というのは、ほとんど家中の者が、あの娘をかわがるからです。あの娘はとても気まぐれで、全くつまらないことでも少しけなされると、悲嘆にくれ、小さな癇癪を起こしたりします。私は時々、あの娘は十分に制されてゐないのではないかと不安に思っています。エリザベス（あの娘の乳母）は、いつもこう言っているのです。「かわいそうだけど、もう——する時間ですよ」と。私は私の知識に従つて行動できるかどうかわかりませんが、これは間違つてゐると思います。

ミータはパパを心から愛していますので、あの娘の小さな癇癪を克服するには、彼の威力がとてもきくと思います。もし彼が、

「ミータの悪い子！」と言うなら、あの娘は心も張り裂けんばかりに泣くことでしよう。ですから、もちろん、私達はそのようなあの娘の感受性を刺激することは避けています。

あの娘は好きなものの何でも一口くれる、気前のいい子ですが、おもちゃについては、あきらめがよくありません。マリアンヌが何かを使つて楽しんでゐるのを見ると、いつもそれがあの娘の手にしたいものなのです。あの娘は他の人々が持つてゐるもので、食べた⁽³⁾り飲んだりできるものは何でも欲しがり、だいおうやマグネシアの果てまで欲しがるのです。

普段、姉妹はとても仲良しです。時々、マリアンヌが、傷つけるとわかつていながら、怒りやはつきりとしたいじわるからでなしに、小さなミータをいじめるのを見ては悲しくなりますけれど、私はもちろんそれを止めますが、それは愛の力によるに違いないと思つてゐます。神が二人を祝福し、守つて下さいますように。

一八三八年 十月十四日 日曜 夜

私のかわいい娘達は、二人ともかなり元気で健康です。なんと私は感謝しなければならぬことでしよう。そして私は、私の子ども達の中にある神の恵みに対し、心から感謝を感じてゐます。私はあの娘達がすべての面で成長してゐると思ひます。

マリアンヌはお誕生日（九月十二日）から、読みとお裁縫を始

めました。そして特に直線縫いはかなり上手になりました。私は、何かあの娘を夢中にさせるものを、喜こばしく思っています。というのは、あの娘を夢中にするものを見つけるのは、ちょっとむずかしいと思っており、あの娘はどんな仕事にも一生懸命にならないからなのです。

この点で、ミータはとても違っていると思います。あの娘はほとんどいつも忙しくしています。それは時々、確かにいたずらのこともありますけれど、あの娘は二人の姉妹のうちでは、より精神的です。

私はマリアンヌをこつこつ励ませたいと念願しています。そして私は、私があの娘に良い手本を示していないのではないかと心配しているのです。私はあの娘にろうそくの芯を作らせたり、絵をびょうどめさせたり、物を数えさせたりしようとするのですが、あの娘はしきにどの仕事にも飽きてしまっています。これとは戦わなければならぬでしょう。というのは、私は経験によって、これがどんなにますますふえてゆく罪であるかということを知っているからです。

気質や言うことをきく習慣については、マリアンヌはとても良くなったと思います。あの娘が以前起こしていた頑固な癪癪はすっかり少なくなりました。私は、あの娘が正しい事をしたという漠然とした欲求を見て、とても嬉しく思います。そして私は、そのような行ないは正しいのかどうかとあの娘自身に時々判断させることによって、あの娘の良心を鍛えましょう。あの娘はとても愛

情深いのですが、これはまた感謝しなければならぬ事の一つなのです。あの娘はまだ激しやうい性格を克服していません。そして私達は、あの娘を相当落着かせる必要があると思っています。そうでないと、あの娘は募るいらだちに見られる疲労でとても参ってしまいうから。

十月二十八日 日曜 夜

この前は中断してしまいましたが、今晚はそれを埋め合わせましょう。マリアンヌと私はあの娘の健康のため一両日中に、プロスペクト・ヒルへ行く予定です。あの娘の成長はとても遅れているので、あの娘の叔父のサムは冬が始まる前に少し転地療養するのが、あの娘にとって好ましいと考えたのです。それがあの娘のためになるよう望んでいます。しかし、私は少し心配しているのですが、よその家には、(食事、温度など)人が調節できない多くの事があるのです。

私は前回に、あの娘が四歳(九月十二日)から規則的なちょっとしたお稽古を始めたことを言わなかったと思います。それ以前は文字を、確かに一部は遊びの中で学んでいました。あの娘は「ママのお稽古」で、一日一語から始めました。しかし、もちろん、それは新しい一語であり、今では時々一行近くを読みます。あの娘はそれが好きなようで、精を出しています。時々あの娘のお裁縫のお稽古で、(それは六目縫うものなのですが)私は自分

が十分に忍耐強くないと心配しています。ああ、すべての感情を御手にしていらっしやる神よ、私をもっと平静にして下さい。

あの娘位、気持ちのわかる子はいません。あの娘は私が悲しうに見えたり、何かが私を不安にしていると思うと、私を慰めようと心を尽くすのです。あの娘の大きな欠点は訳のわからない頑固の発作です。それはなくなりつつあると思いますし、それは、あの娘の仕事や楽しみに関する他人への依存と忍耐とがないためなのです。私はほんの数語の感謝や祝福のささやかなお祈りを、朝晩あの娘に教え始めました。あの娘がこの習慣に敬虔な気持ちで十分にこめているかどうかはわかりません。しかし、何か目に見え、具体的なものを起えた存在に、あの娘を導くことは好ましいことだと思えます。そしていつか、お祈りが捧げられている方に対して、もっと関心が示されることを望んでいます。

またあの娘は、毎朝ペペがドッドリッジの注解書を読んだり、お祈りしている時に加わります。私は時々、この礼拝はあの娘には長過ぎると心配になります。しかし、最初は憶病な人みしりと思われることでひどく手こずったものの、あの娘はこれに加わるのを好んでいると思われます。神よ、私のいとしいマリアンヌを祝福しお守り下さい！

かわいい小さなミータについて言うと、体つきはとてもよく似ていますが、マリアンヌとは全然違います。あの娘はもっと人受けの良い性格で、とても活発で、おどけるのを楽しみ、いつも自分で忙しくしています。しかしあの娘は、以前よりは良くなった

と思います。短気でわがままです。あの娘は食べられるものをいつでも喜んで与える、大変気前のいい子です。おもちゃについてはそう寛大ではありませんが、それについてもしばしば良い態度を示しています。あの娘は何か人を怒らせたり傷つけたりしたと思う時には、キスをするなど人を引きつける多くの方法を身につけています。

あの娘はとても言葉が遅れています——「どうぞ」と言おうとして「タタ」と言うだけがああ娘の言える唯一の言葉なのです。しかしあの娘は自分の前で話されるすべての言葉を理解し、認め、また身振りや音によって自分のこともわからせます。あの娘はここ二カ月で歩き出し、十八カ月にしてはともよく歩きます。最後の大歯がちょうど生えて、私は他の多くの子ども達ほどには苦しまなかったものの、かわいい子の難儀が終わったのを嬉しく思います。

マリアンヌはこの二週間で、肉食を少し始めました。しかしミータにはいつもながらのあつさりしたものを食べさせています。神が私のいとしい子らを祝福して下さいように。 Ⅱ了Ⅱ

(津田塾大学)

註 (1) 偽膜性喉頭炎 (子供の喉頭や気管を侵し、激しいからせきと呼吸困難を伴う)

(2) *ipeacac, ipecacuanha* ブラジル産の植物の根で吐剤・下剤として用いる。

(3) どちらも下剤。